

## 2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 18 日作成)

小委員会名	木質バイオマスによる地方創成モデル検討小委員会	主 査 名：浅野良晴 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：伊香賀俊治
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>【設置目的】低炭素化社会の推進、ZEH・ZEB 化の促進に対する再生可能エネルギーとしての位置づけを考えたとき、木材と木質バイオマスの需要は活性化されなければならない。然るに生産と流通の問題が顕著である。全国の市町村でその解決に取り組もうとしている状況を明確にし、日本建築学会で解決方法のモデル化とその評価手法を検討していくことを目的とする。これは木材及び木質バイオマスの一層の活用の貢献につながるものといえる。</p> <p>【2017 年度活動計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域産出の木質ペレット等バイオマス燃料の安定的な販路の開拓及び需要に見合った生産・集荷・流通体制の構築を目指している各県及び市町村を抽出する。</li> <li>・既に木質バイオマスの流通が一定量存在する地域において、さらなる需要拡大につなげるため流通の高度化を図っている地域を抽出する。</li> </ul> <p>【2018 年度活動計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度の成果を踏まえ、木質バイオマス流通のモデルとなる取り組みを行っている地域において、地方創成のモデル化の枠組みを探り、必要な要点を分析する。</li> <li>・都市域において展開を図り、低炭素化に貢献する木質バイオマス活用方針を明確にする。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>浅野良晴 (主査/信州大学)、岩井一博 (幹事/信州大学)、上田里絵 (NTT ファシリティーズ)、早川慶朗 (㈱アンデコ)、森 拓郎 (広島大学)、麓 英彦 (カナダ林産審議会)、北村俊夫 (斎藤木材工業㈱)、小林謙介 (県立広島大学)、山田 昌宏 (㈱矢崎総業)、大野航輔 (㈱リトル・トリ)、武田孝志 (信州大学)、長野 晃弘 (三機工業㈱)、山海 敏弘 (建築研究所)、五十田博 (京都大学)、大塚雅之 (関東学院大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2017 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/q-000/q110-14.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/q-000/q110-14.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例の調査は進んでいる。</li> <li>2. ペレットに関する ISO 対応の状況や JIS 化の進捗を踏まえ、ペレットの製造と流通に関する知見を得ることができた。</li> <li>3. ZEB 化における木質バイオマスの扱い方の現状と課題の抽出を進めている。</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会での外部者の講演に基づき知見や資料を収集しまとめているが、予算の関係から現場を視察することが難しいことがあげられる。</li> <li>2. 産業界、学術からの資料は収集できているので、今後行政からの計画や資料の収集が課題といえる。</li> <li>3. 他学会との連携を模索することを今後の課題とする。</li> </ol>